PR: ネット検索で www.kanang . Jp/ をご覧下さい

PURE/THAI 発

発刊 90 号 2018年 7月 7日 発行　　発行者　寛庵 泰

EXCITING/Thailand News

Relaxation/Place (くつろぎのいおり)
422/33 Soi 7 Chiangmailand T.Changklan A.Muang Chiang Mai ThaiLand〒50100 Mob :081-205-0689 e-mail : h2.kanang@gmail.com

Pure/Thai 創業10周年

大袈裟に云えば、天の恵みと声を聞きながら、地の風土と環境に適応しながら、人の援けと温情にすがりながら、創業10周年を迎えることが出来ました。ひとえに皆様方、多くの人々の支えがあっての賜物であると、心より感謝申し上げます。異国の地に在って、事業を継続させることが如何に大変か、案外容易いかも、共に学んで来ました。

当初予定ビル(中央)

如何に大変かは何となく分かる気がするけど、案外容易いとは、理解しにくいでしょう。 次の節目である20周年、その又、次の30周年まで生き永らえる事が出来るかどうかは、天のみぞ知る世界ですから、すべからく天にお任せし、感謝の日々を積み重ねて過しています。

創業の当初、早々に躓きがあって、それから現在に至るまで、躓きの連続でした。言うなれば失敗の連続、内外要因による問題解決のオンパレードだった訳です。チェンマイに拠点を構えようと、2007年12月にタイ国入りし、先ずは事務所物件(自宅共用)を探索していたところ適当な広さと賃料の新築物件が見つかり、幸先良くスタート出来そうだったのが、最初の躓きでした。

物件の所有者に、敷金(家賃の3か月分)を支払い、賃貸契約を結んだところ、建物の権利書は、建築会社が登記手続き中との事で、未だ引き渡しされていないので、それが済んでから内装工事に取り掛かって欲しいと云われたまま、1ヶ月待っても、2ヶ月待っても、未だ手続き中。

Open当初のスタッフたち

3ヶ月を過ぎても未だ…。いつになったらと聞いても「分からない…」痺れを切らせ、解約を申し入れたものの、無駄な時間を過してしまった。たまたま契約物件の隣も空いていて、そこの家主が掃除に来られていて、話した所、広さも家賃も倍だが、直ぐにでも使えるという事で、急遽、前契約を解約して現在地の造作に入った。

当初、こじんまりとした駐在事務所兼居室を拠点としようとしたのは、何度も行き来し現地調査をして、現地の事情が分かっているつもりだったが、更に情報を収集しながら、日本での顧客誘致のPR活動・営業に軸足を置く必要があったからだった。ところが、最初の躓きから、段階を飛び越えて店舗(マッサージ店)併用住宅(ステイルーム)造作という、構想第二段階にステップアップしてしまった。

構想に、協力者、資金提供者がバックアップしてくれたおかげで、二段とびながら取り敢えず拠点(箱もの)造りが完成したのが7月。

ここに大きな問題が発生してくる。箱ものは出来たものの顧客の誘致が出来ていない。事業構想に賛同し、協力してくれている人、資金提供をしてくれている人たちも、営業活動は苦手。それなりのPR・営業活動は、してくれはしたものの、中々ロングステイヤー誘致には至らない。

悪戦苦闘しながらも、成果につながらない状況が分かっていながら、稼動開始したばかりの現地営業を任せられる人など未だ居ないから、日本に帰国して営業活動の動きが取れない。やはり、第一段階のステップをスルーしては、立ち行かないと思いつつ時間だけは容赦なく過ぎる。これに追い討ちをかけるように外的要因が資金をストップさせた。2008年11月28日タイ国際空港(スワンナブーム)での占拠事件。赤シャツ・黄シャツの座り込みによる内乱事件。2010年4月10日(土)暗黒の土曜日と呼ばれるタクシン派とアシッピット派による暴動事件。

安全・安心な微笑の国のイメージが、国内闘争・爆破事件によって、資金提供者が一斉に降りてしまった。丁度自己資金が底を付き始めた頃だったから、窮地に陥った。

『事業継続不能』の決断を迫られ、日本の本社をたたみ、現地の事業も中断して一からやり直すしかないという協力者たちの統一した意見だった。「此処で止めてしまったら、元も子も取り戻せない。幸いな事に、現地の事業は確実に右肩上がりで進捗している。お客様のリピート率も高い。日本の事業は休止しても、現地事業は継続する」と云う事で、より現地に専念する事を決め、日本と現地の両立は当面あきらめて、現地自立を目指すべく軸足を現地に置いて現在に至っています。

私が日本でやろうとしていた営業は、井上揚水の『夢の中へ』に唄われています。歌詞中の「踊りませんか」を「行きませんか」に換えて聞いて見て下さい。行く事によって、夢が叶う(かも知れない)という誘いで、誘致営業が成り立ちます。人夫々が夢に描く世界を具現化させるのが、営業の仕事だと常々思っているからです。

https://www.youtube.com/watch?v=Z1G6vOrCHIY　夢の中へ

PR:　ネット検索で　www.kanang . Jp/ をご覧下さい

私論

本文中に時折飛び出す『私』。客観的なPR誌にあるまじき『私』に辟易として、拒否反応を示す人にお構いなく、ずかずかと持論を展開しつつ、それでも「チェンマイにいらっしゃい」と云われても、「誰が行くもんか！」と反発されても、持論展開を止めない。夢を叶えたい営業で、見込み客の夢を聞かずして、営業をした事にならない。

相変わらず、意気軒昂な持論から始まりましたが、20～30代の頃のような藪を切り開き、崖をよじ登る、元気も気力も体力もすっかり衰えました。一番の衰えを感じるのは、体力です。
「だからタバコは止めろ！と、何度も云っているじゃないか」と、生活習慣病であるメタボリック症候群体型の諸氏から、アドバイスされても、全く耳を貸さない頑固さは変わらない。

寄る年並みの体力減退かな？元々痩せ型で、体力にさほど自信がある方ではなかったし…、くらいに捉えている。食べ盛りの少年時代に比べれば、食が細り、三度三度の食事も二度で良くなって来るのも痩せの原因かも知れない。それ故、体力の減退は自然の理だろう。
http://number.bunshun.jp/articles/-/820968　　三度の食事が果たして良いか？
即身仏になるつもりなど毛頭ないが、出来る限り皮下脂肪を減らし、血中コレステロールも押さえて、サラサラ血液で循環器系の流れを良くしたい。消化器系・神経系は順調で、快眠快食快便の健康三要素を満たしている。問題は呼吸器系だが、これは原因が分かっているから、諦めるか、悟るしかない。

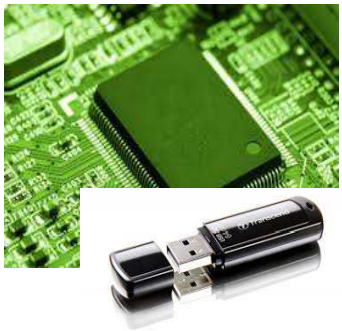
自分自身、かなりなバカヤロー（タイ語のババボボー）だと自覚しながらも、それの数倍もバカなバカヤローが巷を闊歩し、徘徊し、TVや新聞などマスコミに出ている姿をみるにつけ、胸糞悪い思いが募るばかりだから、TVも新聞も殆ど見ない。

左傾だか右傾だかノンポリだか知らないし、知りたくもないが、捻じ曲がった反日自虐史観から、自己否定したければ一人静かに勝手にやっていれば好い事で、善良な国民を巻き添えにする反日行動は、犯罪行為でしかない。かの国が反日無罪を容認するなら、日本は毅然として反日有罪を法制化しなければならない。

政府や政治家・文化人と称する評論家などを批判するのは必ずしも反日ではない。日本国と日本人を貶め、縄文時代から培って来た精神文化まで、崩壊させようとする反日思想と行動は、日本にあってはならない害毒でしかない。害虫・害人は除虫・除去しなければならないのは、自然の理に叶っている。

キリスト教の聖書に『始めに言葉ありき…』と書かれているというように、日本にも『言挙げ』と『言霊』という、言葉に関する言葉があります。普段余り意識しないで使っていて、改めて意識すると、日本の精神文化の根底が覗けそうです。
日本人はよく、云われっぱなし、やられっぱなしで反論したり、やり返したりしません。反論や議論は厳に慎むべしというのが『言挙げ』でもあるからです。熟慮し、反芻し、精選された結果出て来た答えとして『言霊』が発せられるという、実に悠長な文化を続けてきたわけです。

黙読したり、考えたりしている時、頭の中では字面を追って文字が音となって、自分だけには聞こえている状態が『言挙げせず』の状態といえると思います。腹が立ってムカ付いている時も同様でしょう。熟慮もせず、反芻もせず、精選もしないで発せられた言葉に魂など宿っているはずもなく、『言霊』を見抜く力を兼ね備えた日本人には、見透かされてしまうのも当然です。



時代はAIの時代に入ろうとしています。瞬時にして熟慮・反芻・精選された『言霊』が、軽口を封じ込めてしまう時代になったら、モノも言えない事になるのでしょうか。ハード・ソフト共に驚異的な進歩から、正にコンピューター万能時代の様相です。

USBメモリ（リムーバブルディスク）の1ギガが発売された当時は、1万円でした。それが、あれよあれよと云う間に2ギガ・4ギガ・8ギガと倍々に出来て来て、今や250ギガの物まで売られています。数年前までノートパソコンや、ディスクトップ型パソコンのハードディスクは、100～500ギガもあれば充分だと思っていましたが、今では1テラ＝1000ギガが当たり前だとのことです。更に数年後、その1000倍の1ペタバイトのパソコンが出てくるようです。玄孫君たちは使いこなすでしょう。

原発の再稼動が云々され、国政・地方自治の政局に影響していますが、取り敢えずは再稼動賛成派です。（いうまでもなく、安全対策を施した上で）メタンハイドレートの実用化も急がなければならない。（原発を止めているが故に掛っている年間3兆円の費用を、メタハイ実用化の開発研究費に当てれば、その数倍から数十倍の利益を国民が享受できる。その為の再稼動）

その後のエネルギーは、水素エネルギーだと思う。単純に、原爆の700倍とも云われる水爆のエネルギーを電気エネルギーに置換できれば、原発700基分の水素発電所が出来る事になる。石油も石炭もガスも要らない、CO2も放射能も出さない。日本の科学技術に期待したい。

PR:　ネット検索で　www.kanang . Jp/ をご覧下さい

身体と心の安らぎ

若き体力と精神力をもってして、死の直前までの難行苦行を追及しても、身体と心の安らぎ（悟り）は求められない事を体感したお釈迦様は、難行苦行の修練場を去り、（修行僧達からは、落ちこぼれ呼ばわりされながら）ボロボロになった身体を癒しながら、心（に写るよしなし事）を見つめる瞑想修行によって悟りを開いたと言われている。

…って事は、（私）の言葉で云えば、ウェルネスプログラムの実践じゃないか！と云う事になる。
悟りを開くか、閉じるかは、その人ごとの人生の生きざまや目的によって差異はあるだろうが、
現代と云う修羅場で、散々ぱらボロボロになった身体と心を癒しながら、何とか健康を保持し、
元気で過し、健康寿命で逝きたいという思いは、誰でもが持っているものだろう。
次の動画を観て、納得するもしないも、人さまざまで、選択・実践者はあなた自身でしかない。
私は、この動画を観て、数年来続けているウェルネスプログラムの正しさを再認識しました。
天然温泉入浴法＋タイ古式マッサージ＋補助栄養食品の充填＋アルファー＝プログラム。

https://www.youtube.com/watch?v=azOxifaRy1M　癌は消える-1

https://www.youtube.com/watch?v=fmpdakV_4ho　癌は消える-2

https://www.youtube.com/watch?v=gnYj_FEp7BU　癌は消える-3

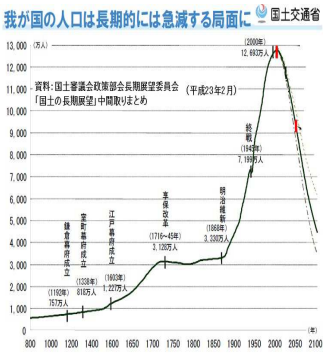
https://www.youtube.com/watch?v= EbBXUgts6Y　癌は消える-4

https://www.youtube.com/watch?v=IHlTzx2U0zo　癌は消える-5

自然治癒力のパワーを最大限発揮させパワーアップさせるには、メンタルパワーを上昇させる必要がある。とは言え、メンタルパワー以前に、体力も気力も、身体的機能までも対応しきれなくなってしまった場合にはどうしたら良いか？人の力を借りるしかない。

人の力を借りるには、それなりに余計な費用が掛って当然だから、そうなる前から自然治癒力と、メンタルパワーアップ力をつけておく事が、健康寿命を全うする秘訣だろう。
ウェルネスプログラムにある＋アルファーは、自然治癒力とメンタルパワーアップ力を高めるための実践（宗教ではないが、心の修行）と、捉えて頂きたい。

『病は気から』で、病原菌や癌などの異常な細胞分裂による病気は、その原因となっている病原菌や症状に直接働きかける抗菌・抗癌剤が良さそうだが、元々人間の身体自体抗菌・抗癌物質（ホルモンなど）や、それを作り出す機能を備えている。それらの分泌や働きを促進させるものが、正に気力であって、正しい気力の高め方もトレーニング（修行）しよう。



定年後の人生は、身体と心の安らぎが得られる温暖な場所で、出来れば趣味の生涯現職を貫き（仕事をし続け）たいと思ってチェンマイに移住しています。

分かり切っていて、先送り先送りして来た、日本の高度高齢化／少子化社会は、突入してから、ジタバタしているのが現状。果たして、日本の人口が1億2千万人でなければならないのか？という疑問は余り上がって来ない。
有象無象の1億2千万人より、少数精鋭の6000万人の方がよっぽど良いと思う。

EU諸国をはじめ、米国・豪州が移民・難民問題で、規制を強化している時に、周回遅れ処か、時代に逆行して移民導入促進強化策を推進している日本の政府与党の亡国策には絶対反対。野党は、モリカケなどやっていないで、これに反対しろ！

安倍政権以前から間違った内政（経済・財政）政策をやり続けた結果、景気を低迷させ、デフレからの脱却が果たせない状況を、他山の石として、逆の政策によってサバイバルを果たすしかない事に気が付いたのが、チェンマイへの移住計画の発端でもある。

どういう事かと云うと、高度経済成長を支え、成し遂げて来た悪名高き『団塊の世代』が高齢化し、早い話が粗大ゴミ化している。捨てるに捨てられない粗大ゴミをどう処理、リサイクルしたら良いかと云う問題を考えた時、豊富な労働力と低賃金を求め、企業が海外進出を目指したように、海外に高齢者が生き甲斐を見つけ出せる受け皿を創ることに至ったという事です。

生き甲斐を感じていない高齢者が、生き甲斐を見つけ出した時の感動はひとしおではない筈だ。見栄も外聞も捨て、自分は粗大ごみ化して来たと自覚し、新たな生き甲斐にチャレンジしようという『団塊魂』を発揮してもらいたいものだ。身分も立場もなくし、生き甲斐までもなくしてダラダラと生きていても仕方がない。足腰・内臓までおかしくなって来たら、迷うことなく…。
チェンマイ行きの切符を買おう！

PR:　ネット検索で　www.kanang . Jp/ をご覧下さい

米朝首脳会談のゆくえ-3

会談をやる、やらないから始まった米朝首脳会談は、当初の予定通り6月12日にシンガポールで開催された。署名された合意文書が、余りにも具体性に欠けた大筋合意文書だったことから、受け止め方に賛否両論が噴出した。おっちょこちょいのメディアや評論家は、金正恩の勝利だったと、はしゃいでいたが、果たしてそうだろうか？

そうは、イカのキ○○○、スルメのチ○○○。と見ている。前号で金正恩の余命は半年という勝手な推論を掲げたが、その実現に近づいた合意文書だったと思っている。
これから先、どんな展開になるかは当の本人である金正恩氏自身にも分からないだろう。

幾ら偉そうにふんぞり返っても、世界中の人々は、金正恩はじめその随行員（百余名）が中国機に無賃搭乗し、ホテル宿泊料金も払えず、あまつさえ無銭飲食で米朝首脳会談に臨んだと云う事実を知っている。今まで『詐欺師を騙して、身包み剥ぎ取る』というフレーズを何度も使いましたが、詐欺師がトランプ大統領か？金正恩か？はたまた、中国の習近平か？何れもかなりな大狸のようですが、肝っ玉の大きさからすれば、トランプ大統領に軍配が上がる事に異論はないでしょう。（信楽焼きの、狸のキ○○○・チ○○○…）失敗経験の豊富なトランプ大統領だから、チヤホヤされてぬくぬくと育って来た坊や達とは役者が違うと云う事です。

シンガポール会談の会場は、セントーサ島カペラホテルで行われたが、米国側の宿泊ホテルはシャングリラホテルだった。（私にとって思い出深いホテルです）
例によって、わき道に入ります。20数年前、ここで『世界ダイレクトセールス大会』が開催され、社命で参加しました。この会議そのものは、イベントのようなもので、世界各国の訪問販売会社（百数社・500人余り）社長/部長クラスが参加する世界大会、という位置づけでした。チェアマンはポーラ化成の鈴木郷史（現会長）でした。エレクトロラックス・アジア地区のマネージャー会議が同時開催され、そこで、日本の販売促進策のプレゼンテーションを行った訳ですが、自分のプレゼンテーションよりも、アジア地区のマネージャー達の、真剣さと意識の高さに驚かされました。

「良い人材を採用するには、高給よりも夢のある職場環境づくりが大切」定着率の悪いダイレクトセールス業界においては、高給で釣って、使い捨てるのが常識だった時代。アジア地区から、目からうろこの発言満載の素晴らしい会議でした。

会議の進行は本社スウェーデンの役員が仕切りましたが、会議の休憩（Tea Break Time)は、30分取り、ホテルの会議室であった事もあって、別室に移りコーヒー・紅茶・ジュース・ミネラルウォーターなどの他、ケーキ・サンドウィッチ・クッキーなどが用意され、ブレークミーティングも和気あいあいの中で充実したものでした。国際会議の雰囲気を堪能し、会議の仕方まで勉強させてもらった思い出です。（因みに昼食休憩時間は2時間で、プールで泳いでいた人も居た）

話を元に戻して、トランプVs正恩会談の本音は、会議場ではなく散歩時間帯に話された公算が高いのは云うまでもないことです。ここで、トランプ大統領は、セールストークの褒め殺しをやったようだ。概ね誰でも、おだてられれば悪い気はしない。おだてに乗れば豚でなくても木に登りたくなる。木登り豚の笑顔を見て、金正恩の勝利だと書き綴った新聞の底が知れる。
木に登ってしまったまでは良かったものの、梯子を外されたらどうやって降りるの？と云う話だ。
7月から実務レベルでの具体的な梯子はずしの話が詰められる。

会談終了後、一旦帰国し、意気揚々と3度目の訪中に出向いた金正恩氏を迎えた習近平氏の浮かない顔が印象的だった。
米国との貿易・経済戦争真っ只中で、自分の延命が約束されたと報告しに来られても、喜び合えない。（両氏ともポーカーフェースは出来ないようだ）
アメリカン・ファーストを掲げ、脅かす存在は容赦なく叩き潰す！という戦略に出ているトランプ大統領の腹の内を、二人はどのように読んでいるのだろうか？

会談同日、日本には、マレーシアとラオスの首相が来日された。共に中国色に染められた国だが、マレーシアは脱中国色を鮮明に打ち出して当選されたマハティール首相の当選後最初の訪問国が日本であり『新ルックイースト』を掲げてODA協力を求めてこられた事は、大歓迎する事（申し出）で惜しみない協力が必要だ。

蛇足で付け加えれば、日本の内政は、骨太の方針で打ち出された最悪の政策を実施したら、右方下がりが止まらない衰退途上国への先細りの方針でしかない。
グローバル外交で精力的に飛び回り、中国包囲網を築いているのは国益に叶っているものの内政を政商に委ね、国民を疲弊させても省みないグローバリストでは、国民の真の支持は得られない。三期目の総裁選も掌中にするだろうが、『日本を取り戻す』初心に立ち返って貰いたいものだ。後出しじゃんけんで勝ちを収集する性癖を持ったロシアは、トランプ大統領の出方を虎視眈々と窺っていて、米露首脳会談では中国・北朝鮮問題に関与して来るだろう。